

まちの再生のシンボルとして

～酒田の新しい船出がここから始まる～

本市の市街地域における人口総数（国勢調査）は、昭和 10 年代後半以降増加し続け、合わせて世帯数も増加し、これに伴い昭和 30 年代後半から市街地の拡大、宅地の拡大が進展していきました。人口総数は平成 7 年がピークとなりましたが、世帯数は、平成 22 年においても、なお伸び、区画整理は平成 17 年まで続きました。

この間、まちの広がりとともに、道路を中心としたインフラ整備も進み、商業環境も大きく変化していきました。酒田駅周辺地区では、平成 9 年に大型商業施設の旧ジャスコが撤退し、酒田の玄関口（顔）といえる場所が、現在に至るまで未利用地として存在しています¹。

これまで、当該未利用地の民間事業者による開発事業が 2 度計画されましたが、実現に至らずにいます。また、全市的な共通課題でもある少子高齢化・人口減少社会が、当地区でも急激に進展し、商店街の空き店舗数も増加し、来街者に、まちの停滞、空洞化を印象づけるものになっていると考えられます。

このような状況を打開し、また、将来にわたり持続するまちづくりへ資するため、旧ジャスコ跡地を中心とする区域において、公共施設（酒田コミュニケーションポート（仮称））の導入を決定し、平成 28 年 7 月には、全国公募により再開発の事業予定者を決定したところであります。

今回の官民複合施設による再開発は、まちに新たな価値を創出し、市民の暮らし・生活の豊かさを実現し、また、酒田駅周辺地区の活性化、中心市街地の均衡ある発展、まちなかへの回遊性の向上等の起爆剤となるまちの再生のシンボルになりたいと考えています。

本市は、長い歴史の中で、湊町酒田として築かれてきた風土があり、「進取の気性（精神）」「公益の心」が息づいていると言われ、まさしく、今回の整備において、その精神・心が求められるものと思います。先人に恥じぬよう、また将来世代へ受け継いでいく責務を持って進めなければなりません。

本書は、今回の再開発で整備される公共施設が、市民に愛され、ともに成長していく施設として実現していくための羅針盤となるため、酒田コミュニケーションポート（仮称）基本計画（以下「基本計画」という。）として定めるものです。

¹ 平成 26 年からは、暫定駐車場として開放している。